

北村秀行の “チャーマス・ブレイン” “Char Mas. Brain”

連載 第121回

ヒメダイの仲間

今回は、前号で紹介したハマダイ属と生態が似ているヒメダイ属のうち、ヒメダイと、オオヒメ、キマダラヒメダイ、キンメヒメダイ、シマチビキを紹介。いずれも美味しい魚たちだ！

解説●北村秀行



ヒメダイ

フエダイ科では小さい種だが、寿命は長い
学名: *Pristipomoides sieboldii*
英名: Lavender jobfish
太平洋側、九州西岸、琉球列島、朝鮮半島南岸、台湾、東沙諸島～インド、太平洋域、ハワイ諸島に分布

「マチ」と呼ばれる魚について！

南西諸島海域に生息し「マチ」と呼ばれ、漁業で重要なのはアオダイ、ヒメダイ、オオヒメ、ハマダイの4魚種。これらは資源減少にともない、2005年から30cm以下の捕獲制限、禁漁区や保護区を設けて、資源回復計画が始まっている。現在の漁獲は、最盛期の1983年の漁獲高2159tの10%以下の20t前後の漁獲で移行している。「マチ」とは沖縄県での地方名。フエダイ科17種、ムツ科

2種、ハチビキ科3種の総称で、漁業では「瀬物」と呼ばれている。

よく似るヒメダイとオオヒメについて！

ハマダイ属と生態が似ているヒメダイ属魚類は、背鰭がほぼ長方形に近く、両目の間が隆起する点で、他の魚属と区別できる。ヒメダイ属 (*Pristipomoides*) は全11種中8種が日本海域に生息する。
◆ヒメダイ (船鰯)
学名: *Pristipomoides sieboldii*
英名: Lavender jobfish
太平洋側、九州西岸、琉球列島、朝鮮半島南岸、台湾、東沙諸島～インド、太平洋域、ハワイ諸島に分布

年齢	尾又長 (cm)	体重 (g)
1	16.8	85
2	23.2	228
3	28.0	411
4	31.8	605
5	34.6	790
6	36.8	955
7	38.5	1,097
8	39.8	1,215
9	40.8	1,311
10	41.6	1,388
15	43.4	1,588
20	43.9	1,644
25	44.1	1,659

●ヒメダイの成長
ヒメダイの成長は遅い。寿命は40年

暖海の100～360mの海山、大陸棚斜面の岩礁域に生息する。幼魚は浅海にも出現し、フエダイ科の中ではかなり温帯域の北方にも生息する。体形は細長い紡錘形。体色は紫褐色、両顎に犬歯がなく、舌の上に絨毛状歯帯があり、同属他種と区別できる。側線有孔鱗数は70～75枚と多い。背鰭の中央部の欠刻が

なく、背鰭と臀鰭の最後の軟条は糸状に伸び、他の軟条の2倍以上の長さになる。尾鰭は褐色で、後縁は深く二又する。産卵期は春から夏。肉食性で、小魚、甲殻類、頭足類など小動物を幅広く捕食する。成長は遅く、性成熟する4年で31・8cm、15年で43・4cm、25年で44・1cmに成長する。寿命は40年前後。一般的には50cmもあれば、かなりの大型と言える。小笠原諸島・父島では79cm、84kgがJGFA、IGFAのオールタックルの記録魚になっている。しかし、成長データからは考えられない大きさだ。ハマダイ属とフエダイ属は似ている種が多く、同定するのが難しい。もしかしたら違う種類かもしれない。諸島で定置網や釣りなどで漁獲される。鱗は小さく取りやすい。骨は硬いが、皮はや



●オオヒメ
キンメヒメダイと体型がそっくりだが、目の色や尾鰭の後縁色が違う

頭の背面に黒色小斑がある。目の虹彩が薄い黄色か淡色。尾鰭後縁が赤みを帯びている。ヒメダイと比べると鱗が大きく粗い。側線有孔鱗数は60～65枚で、ヒメダイの70～75枚より少ない。肉食性で小魚、頭足類、ヒカリボヤ等を捕食する。沖縄での産卵期は4～8月。最大100cm、8.2kg。寿命44年。

関東では珍しい
キマダラヒメダイ

●キマダラヒメダイ (黄斑鰯)
学名: *Pristipomoides auricilla*
肉食性で小魚、甲殻類、軟体動物などをおもに捕食する。最大45cm。
関東の市場では珍しい魚。



●キマダラヒメダイ
体側に黄色斑点が散在する。尾鰭上葉が黄色の個体が多い



●キンメヒメダイ
尾鰭後縁が黄色

キンメヒメダイとシマチビキについて！

ヒメダイ、オオヒメと同様にオゴダイとして流通している。
●キンメヒメダイ (金目鰯)
学名: *Pristipomoides havipinisi*
英名: Golden eye jobfish
小笠原諸島、琉球列島、台湾、西太平洋～中央太平洋、アンダマン海に分布。ハワイ諸島には生息しない。水深90～360mの岩礁域に生息する。
●シマチビキ (縞血引)
学名: *Pristipomoides zonatus*
英名: Oblique-banded snapper
小笠原諸島、南日本、土佐湾、琉球列島、南大東島～インド・中央太平洋、ハワイ諸島に分布。水深70～300mに生



●シマチビキ
体側に黄色の斜黄帯が4～5本ある

息する。体色は赤みを帯び、体側には4～5本のやや斜めで太目の黄色横帯がある。背鰭は黄色で、尾鰭は黄色っぽい赤色。側線有孔鱗数は63～67枚。肉食性で小魚や甲殻類、小動物を捕食する。最大50cm。築地市場には、小笠原諸島の漁場からの入荷が多い。

●Profile
北村秀行 きたむらひでゆき
1946年9月8日生まれ。
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー